



柏葉



第45号

令和 4年3月23日(水)

福島県白河市立東北中学校

発行責任者 校長 渡邊 泰昌

「自分の未来を切り拓け！」

令和3年度修了式 充実した1年間でした

本日令和3年度の修了式を迎えました。今年度の生徒一人一人の活躍は、目を見張るほどの活躍でした。

- 1 授業での真剣な態度、そして、話し合い活動を通じた学習内容への深められること。
- 2 部活動に向けて熱心に向き合い、自分の体力や技能の向上や、仲間との団結力を高めること。
- 3 社会生活でも通用する基本的な礼儀の徹底をしていくこと。

上記に示した「積み重ね」が、将来の自分を創っていくことを生徒の皆さんには伝えてきました。

東北中学校の子どもたちが大きく成長するために、保護者の皆様や地域の方々からのたくさんのご理解とご協力をいただいたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。来年度もますます充実した活動ができるよう教職員一同努めて参ります。下記は、修了式の式辞で生徒の皆さんに伝えた内容です。

下記は、昨年度と今年度の春のセンバツ高校野球で選手宣誓をした二人のキャプテンの言葉です。この文章の中には、皆さんがこれから何を頑張る、何を大切にしていけるかのヒントが隠されています。

1つ目は、倉敷工業高校の福島君が最初に言った言葉、「夢と志が人生をつくる」です。夢はわかりますが「志」という言葉があります。志とは、夢から一歩進んで「実践していく」意味が含まれています。

2つ目は、二人の文章の中で共通の思いがあります。それは何でしょう。それは「感謝」です。感謝の気持ちがなければ、自分の夢を実現していくことは困難になります。周囲の人たちの支えがなければ、今の部活動や学習もままならなくなるでしょう。いつも周囲に対する「感謝の気持ち」は必要で、言葉や態度で表していくことが大切であると思います。この2つの文章を、家に帰ってじっくりと読んで、これからの「自分の未来を切り拓く」ために生かしてほしいと思います。(抜粋)

令和2年度 仙台育英高校の島貫丞(じょう) 主将(選手宣誓文)

「きょうここに、高校球児の憧れの舞台である甲子園が戻ってきました。

この1年、日本や世界中に多くの困難があり、それぞれが多岐にわたるものを失いました。

答えのない悲しみを受け入れることは、苦しくてつらいことでした。

しかし、同時に多くのことを学びました。当たり前だと思っただけは、誰かの努力や協力で成り立っているということです。

感謝。ありがとうございます。これは出場校すべての選手、全国の高校球児の思いです。

感動。喜びを分かち合える仲間とともに、甲子園で野球ができることに感動しています。

希望。失った過去を未来に求めて。希望を語り、実現する世の中に。

そして、この3月で東日本大震災から10年となりました。

日本、世界中に多くの協力や支援をいただき、仲間を支えられながら困難を乗り越え、10年前、あの目撃した光景から想像できないほどの希望の未来に復興が進んでいます。

これからの10年。私たちが新しい日本の力になれるように歩み続けます。

春はセンバツから。穏やかで鮮やかな春、そして1年となりますように。

2年分の甲子園。一投一打に多くの思いを込めてプレーすることを誓います」



令和3年度 倉敷工の福島貴太主将(選手宣誓文)

「夢と志が人生をつくる、当たり前だった日常が失われて、三年がたちます。今なお世界中でパンデミックが起り、多くの人たちが苦しみや困難に立ち向かっています。

それでも私たちは一歩ずつ歩んできました。甲子園に立つまでにたくさんの方々を支えてもらいました。

今、野球ができていのもその人たちのおかげです。聖地・甲子園という舞台に立てることに感謝します。大好きな野球ができることに感謝します。そして、私たちの最大の理解者、応援してくれている家族に感謝します。ありがとう。

夢や志を持ち続け、これからの未来に向かって、一日、一分、一秒を大切に歩いていきます。

ファイティングスピリット、フレンドシップ、フェアプレー。甲子園に立つ喜びを胸に、最後まであきらめることなく、正々堂々とプレーすることを誓います」